

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600137		
法人名	有限会社 ライトマインド		
事業所名	グループホーム 花縁 ときわ館		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4番14号 (電話) 0144-61-7811		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年9月23日	評価確定日	平成21年10月2日

【情報提供票より】(平成21年 5月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人、非常勤 1人、常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費:17,000円 暖房費:(10~3月)7,500円	
敷金	(有) (48,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(5月 7日 現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	76 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧澄川病院、光洋整形外科・リハビリ・内科、吉田内科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム花縁 ときわ館」は、苫小牧市の自然豊かな住宅地に位置している。広々とした敷地に抗酸化工法(バイオ住宅)を利用した健康的な建物で、内部は利用者を重視した使いやすい手すりを設置し、ダイヤル式黒電話や足踏みミシンなど利用者世代の懐かしい品を配置して落ち着いて過ごせるように工夫している。施設長の思いでもある、利用者一人ひとりが自立(自律)した生活が出来るような温かいケアをしていきたいと言う熱心な思いは職員にも浸透し、全職員で利用者の思いを尊重した温かいケアが日々行われている。家族からも、思いやりにあふれる温かい接し方に感謝の言葉が多く寄せられている。利用者は明るい笑顔で、毎日生き生きとした生活を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価のため、前回の取り組み項目はない。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、評価表を入社間もない職員を除いた全員に配布し、ガイドブックを参考にして1ヶ月かけて記入してもらい、管理者がまとめあげている。自己評価を行う事で、職員はケアの振り返る機会になり、管理者は職員の思いを汲み取る契機になったと感じている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設後、第1回目を7月に開催し、町内会役員や地域包括支援センター長、家族、協力病院職員などの参加のもと、運営推進会議の概要説明や事業所説明を行っている。9月に2回目を開催し、外部評価の説明や防災についても議題に取り上げている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月「すずらん通信」を作成し、事業所全体の様子利用者個人の様子を家族に報告している。家族の来訪時や電話などで利用者の様子を伝えている。玄関に意見箱を設置しているが、まだ投函はされていない。家族等には、どんな些細な意見や苦情でも言ってもらえるよう努力している。今後は、更に家族等の意見を運営に反映させるために家族会の立ち上げを検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入している。開設1年と間もない事もあり、町内会行事にはまだ参加できる機会はないが、事業所のお祭りに近隣住民を招待したり、日々の生活の中で、隣のグループホームと散歩時に声をかけ合うなどの交流がある。オカリナサークルや手品などボランティアの訪問がある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活・安全で当たり前の生活・尊厳のある生活をめざし、安全で自立（自律）した生涯への支援を行う」との、法人の基本理念を柱にしている。	○	法人の基本理念を基に、全職員で、地域密着を入れた事業所独自のケア理念を今年度中に作成する予定なので、その取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の基本理念は、パンフレットに掲載し、玄関に掲示している。基本理念は、月2回の会議時に取り上げたり、悩んだ時などに立ち返るなど、日々のケアの中で常に意識して理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。開設1年と間もない事もあり、町内会行事にはまだ参加できる機会はないが、事業所のお祭りに近隣住民を招待したり、日々の生活の中で、隣のグループホームと散歩時に声をかけ合うなどの交流がある。オカリナサークルや手品などボランティアの訪問がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、評価表を入社間もない職員を除いた全員に配布し、ガイドブックを参考にして1ヶ月かけて記入してもらい、管理者がまとめあげている。自己評価を行う事で、職員はケアの振り返る機会になり、管理者は職員の思いを汲み取る契機になったと感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設後、第1回目を7月に開催し、町内役員や地域包括支援センター長、家族、協力病院職員などの参加のもと、運営推進会議の概要説明や事業所説明を行っている。9月に2回目を開催し、外部評価の説明や防災についても議題に取り上げている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は月に2回は市役所を訪問し、ショートステイの受け入れや、研修の相談などを行い、市と共に事業所のサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、系列事業所と合同の「すずらん通信」を作成し、事業所全体の様子と、利用者個人の様子を家族に報告している。家族の来訪時に利用者の様子を伝えたり、変化があった時などは電話で密に連絡を取っている。金銭出納報告は、毎月郵送で行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、○×式のアンケートを用意しているが、まだ投函はされていない。家族等には、どんな些細な意見や苦情でも言ってもらえるよう努力している。今後は、更に家族等の意見を運営に反映させるために家族会の立ち上げを検討している。	○	今後は、更に家族等の意見を運営に反映させるために家族会の立ち上げを検討しているとのことなので、その取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今回は新規の開設ということで、法人内での異動が行われたが、基本的には事業所間での異動を行う予定はない。異動や離職時の利用者への報告は個々の職員に任せているが、利用者へのダメージはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、北海道認知症高齢者グループホーム協議会や苫小牧保健所などが主催する研修会や勉強会に、業務扱いとして経験年数に応じて参加させ、職員の育成に努めている。毎月1回内部研修を行い、身体拘束や移乗介助、虐待防止法などについて学習している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苫小牧市グループホーム協議会の主催する研修や交流会に職員も参加している。職員の知り合いの事業所と訪問交流を行ったり、隣のグループホームとは、散歩の時など利用者と共に交流がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に施設長が自宅を訪問して顔見知りになり、その後事業所へ見学に来てもらうようにしている。利用開始後は、帰宅願望のある利用者と共に夜も数時間散歩するなど、利用者の思いに沿って対応するように配慮し、無理なく馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは、共に支え合う関係作りが出来るように努力している。行事計画や日々の生活について相談をしたり、昔の事や、看護師経験のある利用者から健康面に関して教えてもらうなど、職員は個々の利用者の経験から学ぶ事も多く、お互いに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、それぞれの利用者の思いや意向を汲み取るように努めている。言葉で表現出来ない利用者に対しては、表情や行動から思いを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のかかわり、観察、家族等からの情報、カンファレンスでの話し合い等から担当職員が介護計画の原案を作成し、サブ担当者、リーダー、施設長の意見を聞きながら介護計画を作り上げている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に6ヶ月ごとの見直しであるが、モニタリングは1ヶ月ごとに行っている。利用者の状態に変化が生じた場合はその都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊時の付き添い、協力医療機関での往診・通院リハビリの送迎、訪問介護ステーションを利用できるなど医療面が充実しているほか、家族等の希望に応じて食事を提供し、定期的に一緒に食事を取る家族もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は殆どの利用者が協力医療機関の往診を利用しているが、かかりつけ医の受診は自由である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けて、ホームとしての方針がある。入居契約時に本人や家族等に口頭では説明しているが、まだ文書化はしていない。	○	重度化や終末期に向けて、事業所としての方針や具体的内容を文書化し、早い段階で本人や家族等に説明していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録ファイルはイニシアルで表示し、所定の場所で管理している。また、日常での言葉遣いやトイレ等の誘導時にプライバシーを損ねるような表現をしないよう注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事の時間など一定のルールはあるが強制ではない。利用者各自のペースに合わせてながら柔軟に対応している。散歩の習慣のある利用者は散歩に、囲碁のサークルを見学したい利用者にはコミュニティセンターに職員が同行している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら1週間ごとに職員が献立を立てている。利用者は、米とぎ、盛り付け、配膳、下膳などその日の状態や身体能力に応じて手伝っている。職員は、利用者と会話をしながら同じ食事を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日13:00頃から16:00までの時間帯で入浴できる。最低でも週2回は入浴してもらっている。入浴を拒否する利用者には無理強いせず職員が声かけをして入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前の「いただきます」の挨拶がけ、掃除などの日常の役割や、花の世話、散歩、絵、工作、囲碁、詩吟、歌など、利用者が趣味や得意ごとを楽しめるよう支援している。今後の試みとして、少人数での外食の機会を作りたいと考えている。	○	外食は行事の一環として事業所やユニット単位で企画している。今後は少人数での外食の機会を作りたいとのことであり、その取り組みに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日には、散歩や買い物、ウッドデッキに出て日光を浴びるなど、希望すれば毎日でも外出できる。外出の機会が少なくなる冬季には、月に1回以上のドライブを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関に施錠をしていない。台所から居間の様子を見渡せる設計になっているので、利用者が外に出る様子が見えた時は、職員は阻んだりせず、後から付いて一緒に外出するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署からの指導を受けながら避難訓練を実施している。災害時の町内会との連携は、運営推進会議を通して取り組む計画が進んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前勤務していた管理栄養士の職員が立てた献立をベースに、栄養バランスや食事量を配慮し、水分摂取量は1200ml～1500mlを目標に支援している。特に支援が必要な利用者には介護計画に反映させている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が抗酸化工法(バイオ住宅)を利用した健康的な造りで、使いやすい手すりの設置、ダイヤル式黒電話や足踏みミシンの配置などの工夫がみられる。居間には利用者の作品や写真などが飾られており居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や馴染みの物が用意され、安全で安心な生活の場となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。